

共同利用研究報告書執筆のお願い

HIMAC 共同利用研究課題申請者殿

2017年12月15日

前略、貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

放射線医学総合研究所 HIMAC 共同利用研究に関する「報告書」と「研究成果一覧」を提出して下さるようお願い申し上げます。報告書は課題申請者が取りまとめの上、研究課題毎に提出してください。

送付先： 〒263-8555
千葉県稲毛区穴川 4-9-1
放射線医学総合研究所
加速器工学部気付
共同利用研究推進室

締切： 2018年2月23日（金）必着

質問等： (e-mail) himac_riyou@qst.go.jp

出来上がった報告書を読みやすくするために、原稿の作成に当たっては「報告書作成上の注意」を守って下さいますようお願い申し上げます。守られない場合には再提出していただくこともあります。

平成29年度（2017年度）の成果発表会は、2018年4月16日（月）、17日（火）を予定しております。発表の形式等詳しい内容は、後日ご連絡いたします。

草々、

（所内対応者の方へ）このお知らせは、課題申請者全員に推進室から直接送付しております。

HIMAC 共同利用研究報告書の報告内容と作成上の注意

1. 報告書の内容

研究課題に書かれた計画に基づき、今年度の研究の進捗状況が分かるように記述してください。

報告書は必ず次の内容を含んでください。

- 研究課題名（日本語、英語の両方で）
- 研究課題整理番号
- 参加した研究者の名前、所属機関名（日本語、英語の両方で）
- 英語のアブストラクト（200語以内）
- 研究内容と成果（英語又は日本語）

（治療・診断の課題）

- (a) 研究の目的とバックグラウンド
- (b) （2年目以降であれば）前年度までに得られている結果の簡単なまとめ
- (c) 今年度実施された分で、その課題の研究対象となった事例の内容と数
- (d) 結果としてまとめられた事柄

（生物の課題）

- (a) 研究の目的とバックグラウンド
- (b) （2年目以降であれば）前年度までに得られている結果の簡単なまとめ
- (c) 今年度実施された分で、照射対象物の種類と数、照射ビームの種類
- (d) それらの解析結果のまとめ

（物理・工学の課題）

- (a) 研究の目的とバックグラウンド
- (b) （2年目以降であれば）前年度までに得られている結果の簡単なまとめ
- (c) 今年度実施された分で、照射対象物の種類と数、あるいは測定された物理量などの項目、照射ビームの種類
- (d) 研究目的に対するそれらの解析結果のまとめ

- （必要であれば）参考文献

基本的に今年度の研究経過及び成果の報告を主体として、結果に関する学問上の議論等はなるべく省略して下さい。

2. 評価のポイント

報告書は、発表会の内容、申請書の内容、課題を採択した時の審査結果と併せ、課題の「評価」の材料となります。評価結果は後日、各申請者に通知されます。

評価部会では、評価の際のポイントとして次のような点を考慮しております。

- 進捗状況及び変更の妥当性：当初の計画に比して、予定通り進捗しているか。また当初の計画を変更した場合、妥当な判断、変更であったか。

- 結果のまとめ方：結果の解析方法が妥当であるか。十分な吟味がなされているか。解析が時間的に間に合わない場合は、審査は次年度回し。
- 成果発表：成果が適切に発表されているか。発表までの期間、発表の方法。（主として2年目、3年目の課題。）

3. 報告書作成上の注意

3.1 提出書類等

- (1) A4 白紙に印刷した原稿

同じ原稿を2部提出していただきますが、鮮明であればコピーで構いません。印刷した原稿は必ず提出して下さい。

- (2) A4 白紙に印刷した研究成果一覧

報告書とは別な用紙に印刷して下さい。これも2部提出して下さい。

- (3) 「電子版の原稿と研究成果一覧」を入れたCD

報告書の整理、印刷を迅速にするために電子版の原稿を提出して下さい。

CDの表面に、課題整理番号、申請者氏名、使用したパソコンの機種、作成したアプリケーション名、を油性インク等で直接記入して下さい。

同じ電子媒体に、研究成果一覧（別紙参照）を入れて下さい。

アプリケーションは出来る限り、マイクロソフトワードを利用し、図や表も電子的に内部に取り込んだ形の原稿にして下さい。電子版原稿の製作やワードの利用に問題がある方は、事前に共同利用研究推進室まで御相談ください。

PDF形式のファイルは不可とします。PDF形式になっていきますと、課題番号の間違いなど細かなミス修正が非常に面倒になります。また、フォントや図に関する必要な情報が消失している場合が多く、印刷原稿を作る際に支障をきたします。

- (4) 研究成果一覧に載せた論文、Proceedings等の別刷り、各一部

別刷りが無い場合はコピーを同封して下さい。

3.2 長さ体裁

次の二つの方法から選んで下さい。

- (1) 通常は一課題当たり、A4、2枚以内を目処に作成して下さい。過度に長い原稿が送られてきた場合は書き直していただくことがあります。

- (2) 内容が多岐にわたり一つの報告にまとめに

くい場合は、副題を付けて複数の報告に分割する事も可とします。但し、この場合一つの報告（一つの副題）についてはA4、1枚を限度とします。

これまでの複数年に渡る成果を「詳しくまとめる」といった場合は、報告書とは別に HIMAC レポートとして刊行したいと思います。御希望のある方は共同利用研究推進室まで御相談下さい。

3.3 レイアウト等

ワープロ等を用い鮮明な原稿を作成し、図面等は適当な大きさにして貼り付け、いわゆる「カメラレディの原稿」としてください。用紙は A4 の白紙で縦置き、2 段組とし、上下左右に 2cm のマージンをとってください。また頁数は入れないでください。

研究課題名は応募の際の課題名と同一の題名を、ゴシック系の 12 ポイント活字で書いてください。長い場合は複数行に渡っても結構です。課題名の英語訳も書いてください。副題をつける場合は、副題とその英訳名を入れて下さい。

研究課題整理番号も忘れずに書いてください。課題番号中のハイフンは省略してください。

研究者名は実際に研究に参加された方の名前を書いてください。応募の際に研究組織に入っていた方でも、その後の状況の変化により研究に参加されなかった方は除いてください。また共同利用研究員だけでなく、放医研の研究者等も含まれていることをお忘れなく。研究者名のアルファベット表記も付けてください。

所属機関は最後にまとめて表記し、研究者の名前とは上付添字で結び付けて下さい。スペースを節約するために、所属機関名は出来るだけ略称を用いてください。

英語の Abstract (200 語以内) を先頭に付けてください。本文は英語又は日本語としますが、海外からの問い合わせも増えつつありますので、出来るかぎり英語を使用して下さい。

Abstract 及び本文は 10 の Times (英語の場合) 又は明朝系 (日本語の場合) の活字を用いて下さい。フォントの種類によってばらつきがありますので、一頁に 42 から 50 行入る位の大きさの活字と考えて下さい。

本文は、報告書の内容に沿って適当な章に分けてください。

サンプル

HIMAC 共同利用研究報告書の例
Example of Report on the Research Project with Heavy Ions at NIRS-HIMAC
(17M001)

放医研太郎^a、重粒子次郎^b
T. Hoiken^a and J. Jyuryushi^b

Abstract

We carried out
.....
..... (not exceeding 200 words)

4. 今年度の研究成果と解析結果

.....
.....
.....

1. 研究の目的とバックグラウンド

.....
.....
.....

A4、2枚を目処

(必要であれば) 参考文献

2. 昨年度までに得られている結果

.....
.....
.....

-
- a. 放医研重粒子
 - b. 千葉大学工学部

3. 今年度の研究内容

.....
.....
.....

研究成果一覧提出のお願い

共同利用研究に関する報告書とは別に（別紙で）、平成 29 年度（2017 年度）に於ける「HIMAC 共同利用に係る」発表論文、学会、研究会での発表等を「平成 29 年度の研究成果一覧」としてまとめて提出して下さい。平成 28 年度以前に発表された分でも平成 28 年度以前の報告書に未記入のもの、あるいは前回の報告書を作る段階では印刷中で、雑誌名やページ数等が抜けているものなども今回の研究成果一覧に含めて下さい。特に学位論文は発表時期が遅い為に、記入漏れが目立っています。平成 28 年度以前のものでも結構ですから、出来る限りご報告をお願いします。

（注：提出をお願いする成果は、HIMAC 共同利用で行った研究、及びそれに深く関わりを持つ研究を対象としています。HIMAC 共同利用研究に無関係の成果は含めないでください。）

研究成果一覧は以下の基準に従って分類して下さい。

- (1) 原著論文 (Referee 付の出版物、Proceedings でも Referee 付で雑誌に掲載される場合はこちら)、
- (2) 国際研究集会などの Proceedings (話の全体が論文として印刷されたものをさし、Abstract のみの場合は (3) とする)、
- (3) 学会及び研究会の口頭発表、ポスター発表も含む、
- (4) その他 (解説、単行本など)、
- (5) 学位論文 (博士論文、修士論文、卒業研究)

お送りいただきたいものは、

- (1) A4 白紙に印刷した研究成果一覧
報告書とは別な用紙に印刷して下さい。
- (2) 「電子版の原稿と研究成果一覧」を入れた CD
CD の表面に、課題整理番号、申請者氏名、使用したパソコンの機種、作成したアプリケーション名、を油性インク等で直接記入して下さい。
研究成果一覧は原稿と同じ CD に一緒に入れて下さい。
- (3) 研究成果一覧に載せた論文、Proceedings 等の別刷り、各一部
別刷りが無い場合はコピーを同封して下さい。学位論文等で全体が長く、コピーが困難な場合は、表紙のコピー (タイトル、著者、日付、学科等の情報が含まれていること) でも結構です。

成果一覧の記入例 (日本語又は英語のどちらか一方で結構です。)

(原著論文等)

- ・放医研太郎、重粒子次郎：HIMAC における報告書作成の方法、日本重粒子線学会誌、5、500-502 (2017).
- ・Hoiken T., Jyuryushi J.: Method of preparing a manuscript. Journal of HIMAC 5, 500-502 (2017).

(Proceedings 等)

- ・Hoiken T., Jyuryushi J.: Method of preparing a manuscript. Proc. X HIMAC Conference, 500-502 (2017).

(学会及び研究会口頭発表等)

- ・放医研太郎、重粒子次郎：HIMAC における報告書作成の方法、日本重粒子線学会年会、千葉、2017.10.
- ・Hoiken T., Jyuryushi J.: Method of preparing a manuscript. HIMAC meeting, Chiba, 2017.12.

(その他)

- ・放医研太郎、重粒子次郎：HIMAC における報告書作成の方法、重粒子書房、500-600 頁 (2017).
- ・Hoiken T., Jyuryushi J.: Method of preparing a manuscript. Jyuryushi Publishing, pp. 500-600 (2017).

(学位論文)

- ・放医研太郎：HIMAC における報告書作成の方法、修士論文、千葉大学大学院総合理工学研究科 (2017).